

令和 8 年 3 月 3 1 日

関係の皆様

砧の学び舎 世田谷区立明正小学校
校長 栗林 大輔

令和 7 年度の改善方策について実行した改善結果及び令和 8 年度に向けた改善方策

日頃より本校の教育活動に、ご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

令和 7 年度の改善方策について実行した改善結果及び令和 8 年度に向けた改善方策について、下記のとおりご報告します。

記

1 令和 7 年度の改善方策について実行した改善結果

【明正小学校関係者評価結果】及び<改善結果・改善方策>は以下のとおりです。

【明正小学校関係者評価結果】

◎総評

令和 7 年度、児童向けアンケートの学習指導・生活指導・学校行事についての項目でプラス評価（「とても思う」と「思う」の合計）が概ね 80%以上を保っており、とくに学校行事に関しては高い数値となっている。今年度も、児童と先生との関係は良好に保たれたと評価する。

自己評価報告書やヒアリングによると、先生方の中で問題意識や悩みを発信し共有しやすい風通しの良い職場になっていることがうかがえる。校内研究や研修が授業力向上に有効で、その中で「それぞれ得意分野やアイデアをいかし、全体で学び合おうとする風土が根付いている」との声もきかれた。IT 研修は自由参加で、必要と感じる人が利用できてよかつたとの声もあった。今年度も「チーム明正」は実践されていると思われる。

当委員会では、ここ数年で配置されるようになった支援スタッフの効果的な活用を要望してきた。今年度は、インクルーシブ教育支援員、エデュケーションアシスタントが新たに配置された。自己評価報告書やヒアリングで「サポートは非常に有効であった」との声が多く聞かれ、支援スタッフを効果的に活用できたと評価する。一方で課題もあり、特別な配慮を要する児童たちの居場所として昨年度 2 学期より「ホットルーム」が設置された。このホットルームがふさがった際の代替場所が不足している。そして、要配慮の児童たちは個別対応での指導が不可欠なため、その人員も不足しているとのことである。今後の難しい課題であるが、検討していただきたい。

児童向け設問「私は放課後、友だちと遊ぶ時間がある」でのプラス評価が 52.7%（前年度 58.8%、前々年度 52.5%）となっており、半数近くの 5,6 年生は放課後に友だちと遊ぶような時間的な余裕はない状況が続いている。学校での縦割り班活動、委員会活動、クラブ活動、体育の時間や休み時間に一緒に体を動かすといった活動が重要となってきたと思われる。

今年度の新たな児童向け設問「学校には相談できる大人がいる」のプラス評価が 82.2%であった。先生方のヒアリングで、担任の先生以外で子供たちが相談できる大人とは誰かをたずねたところ、スクールカウンセラー、養護教諭、以前の担任の先生など、子どもたちは担任の先生以外にも相談できる大人を見つけているとのことであった。子どもが学校生活の中で、相談できる大人がいる環境は望ましいと思われる。

<改善結果・改善方策>

児童向け学校関係者評価アンケートの結果等に基づき、児童の主体的な意欲や教職員の取組について価値付けていただきました。児童の多様な思いや願いを実現する教育活動とともに、集団生活を通して起こりうるトラブルや事故等に対して、「チーム明正」として組織的に対応することを土台に全教職員が一丸となって取り組んできた成果と捉えます。今後も「子どもを主役」とした学校づくりを進めてまいります。そのための要因の一つは何事も共有し、支援し合える教職員の連携です。ちょっとした時間の「井戸端会議」「井

戸端研修」が何でも語り合える組織づくりにつながっています。教職員の良好な関係を管理職が中心となり、構築してまいります。

今年度からインクルーシブ教育支援員が増員されるとともに、エデュケーションアシスタントが配置され、より多くの目で児童の支援を進めることができました。特別支援コーディネーターを中心に効果的、効率的な支援を進めるとともに、全教職員で毎週情報交換を行い、組織的な支援を進めてまいります。また、「ほっとルーム」の効果的な活用についても人員や場所を検討し、すべての子が安心して学校に通えるよう取り組んでまいります。

児童向け設問「私は放課後、友達と遊ぶ時間がある」の肯定的な評価が低いことは、継続的な課題です。児童の多様な環境の中で、放課後に友達と遊ぶ時間を求めることは難しいと思われませんが、在校時間の中での学級活動や異学年との交流、縦割り班活動、児童会・クラブ活動等を効果的に設定し、児童の自己肯定感や帰属意識を養ってまいります。

児童向け設問「学校には相談できる大人がいる」について肯定的な評価が得られたことは、重要なことと捉えています。大人にとって「小さなこと」と思われることでも児童にとっては「切実な問題」です。「明日も学校に行きたい」と児童が思えるよう全教職員が子どもの声に耳を傾け、児童が抱える問題の早期発見、早期対応・解決に努めてまいります。

【明正小学校関係者評価結果】

◎回収率について

保護者向け調査シート回収率 19.4%（前年度 65%）、児童向け調査シート回収率 87.0%（前年度 97%）であった。ただし、分母は令和 7 年度学校要覧の児童数を使用した。保護者アンケートが 3 年度前に紙媒体から Web での回答に変更となって以来、回収率は低下傾向にあったが今年度の回収率は前年度より極端に低下した。特に保護者アンケートの回収率は、保護者全体の意見とするには厳しい数値である。

次年度以降もアンケートを実施するのであれば、回収率向上に向けた呼びかけに関して大幅な強化が必要であろう。あるいは保護者の声を聞くための新しい施策を考え、導入していくべきであろう。

<改善結果・改善方策>

保護者向け調査シートの回収率が 19.4%と大きく低下しました。紙媒体から web での回答になったことも要因の一つと考えられますが、回収率を高めるための「すぐーる」等での依頼を継続的に進めてまいります。また、授業公開や運動会等の学校行事のアンケート、保護者会等での保護者からの意見を生かし、教育活動の改善・充実に取り組んでまいります。

【明正小学校関係者評価結果】

◎重点目標についての評価結果

①「明るい子ども」として、学ぶ意欲を高め、自らすすんで学習課題をもち、主体的に解決していこうとする能力や態度を育てる。

今年度の学習面に関する学校評価アンケートの児童向け設問「わたしは、すすんで自分の考えを書いたり発表したりしている」でのプラス評価は54.2%（前年度63.2%）と9ポイント下がっている。この点について、発表が苦手な子どもに対して、先生方がどのように働きかけているかをヒアリングした。すると、今年度の校内研究のテーマが『子どもの「やってみたい」を引き出す探究的な学習を目指して』であり、本校は継続的に「子どもが主体的に学習課題を見つけ取り組む」指導に力を入れている。意見を発表する子どもが偏らないよう、グループ学習の話し合いの中で発言させるようにする、定期的にお題を出して「今日はこの列の人発表」のように、半ば強制的に発言させることもある。教室を見回って「この意見良いから皆に発表して」と個別に先生から声をかける、発言に消極的な子どもはそれぞれに理由や事情があるので一人一人ていねいに見て対処しなくてはいけない、などの工夫・意見を聞くことができた。今後も、児童が自分の考えを発表できる機会がつかれるよう工夫していただきたい。

もうひとつの児童向け設問「わたしは、すすんで友だちの考えを聞いたり話し合ったりしている」についてのプラス評価が84.0%（前年度86.4%）と、この数年高い数値を維持している。これより、他者の考えを受容し協力して問題解決にあたる姿勢は育ちつつあると思われる。さらに自信をもって意見を発信できる表現力を引き続き指導していただきたい。

教科担任制について、自己評価報告やヒアリングによると、複数の教員から、授業に慣れて質を高めることができる、子どもを学年として見ていける、などの意見も聞かれ、その効果を十分いかしていると思われる。一方、課題としては、時間割を組むのがパズルのようで大変、初任の若手教員はとくに教えない教科の指導力が身につかない、という2点について、今後の検討事項として残っているのではないかと、このことである。課題解決に向けた工夫を引き続き続けて行っていただきたい。

<改善結果・改善方策>

令和7年度は、校内研究において探究的な学びの充実を取り上げ、「子どもの『やってみたい』を引き出す探究的な学習を目指して」をテーマに授業実践を通して取り組みました。世田谷区においても探究的な学びを施策に取り上げ、「問いを見いだす→解決方法を考える→協働して学ぶ→振り返り、次に繋げる」サイクルを重視しています。本校では特に、「課題を見いだす」「解決方法を考え計画を立てる」ことに焦点を当てました。1年間の取組を通して、児童が学習に対して「あれ?」「どうして?」といった切実感をもたせたり、生活経験や既習事項と関連させて考えさせたりすることで、児童が学習内容を身近に捉え、自分事として考えることで、主体的に学習に取り組む姿が見られることが分かりました。「すすんで自分の意見を書いたり考えたりしている」児童をさらに増やすためには、前向きに学習に取り組む態度を育てることが必要です。探究的な学びの充実を目指した取組の成果を日常の授業に生かしていくことで、主体的に学ぶ児童をさらに育ててまいります。また、児童向け設問「友だちの考えを聞いたり話し合ったりしている」については高い肯定的な回答が得られています。他者の意見を聞いて、自己に生かしていくことは、探究的な学びの充実に必要なことです。今後は、協働して学ぶ姿勢や学習を振り返り、次に生かしていく意欲について校内研究で取り上げる予定です。児童の実態を捉え、学習の充実に取り組んでまいります。

教科担任制は、東京都教育委員会においても授業の質の向上や多面的な児童理解、教師の負担軽減等を目的に導入が進められています。一方で校庭・体育館や特別教室の割当等も含めた時間割作成や教員の指導力向上は課題として挙げられており、都や区の動向とともに先行実践校の事例も踏まえ、進めてまいります。

【明正小学校関係者評価結果】

◎重点目標についての評価結果

②「正しい子ども」として、思いやりや感謝の心をもって、すすんでよりよい人間関係を築く能力や態度を育てる。
本校では、おはよう DAY を設けて継続的に「あいさつ」を推進している。自己評価報告書によれば「効果があって、あいさつをする子どもが増えた」と感じている先生がいる一方で、「あいさつをしても返してこない子どもが多くいる」と効果について懐疑的な先生方もいる。これに限らず「生活ルールを守る」、「時間を守る」、「言葉づかい」など、熱心に取り組んでも改善がみられないと感じている先生方もいて、生活指導面の課題はまだ多いものと思われる。学校評価アンケートの児童向け設問「わたしは、学校のきまりを守って行動している」でのプラス評価は 78.6%（前年度 86.4%）、「先生に注意されたことは理解できる」でのプラス評価は 88.0%（前年度 90.4%）、「わたしは、自分からすすんであいさつをしている」でのプラス評価は 88.0%（前年度 91.2%）となっており、5,6 年生においては 80%から 90%の子どもが「決まりは守るべき」、「あいさつはした方が良い」という意識を持っていると推察される。先生方には、このような意識が実践に結び付くように根気強く指導していただきたい。
タブレットの家庭内での利用について、学校評価アンケートの保護者向け設問「子どもは学校配布のタブレットやスマホを家庭内でルールを決めて適切に使用できている」でのプラス評価が 67.3%（前年度 63.4%）と数値は高いとは言えない。先生方が、学校においてタブレットを子どもに使わせる時に気を付けている事項をヒアリングしたところ、目的以外の使用を防ぐために調べ物をするときには、あらかじめその内容を先生に申請して許可を取らせる、使用内容に不安がある子どもは、先生の目が届くところに席においてタブレットを開いた際の前画面がチェックできるようにしているなどの意見があった。また、健康上（眼、姿勢）の配慮から、タブレットを使うときは机の上を片付けて平らな場所で使わせるようにしているとの意見もあった。子どもたちにタブレットを使わせるにあたり、先生方が工夫している取り組みを保護者に向けて機会があるごとに発信していただきたい。

<改善結果・改善方策>

挨拶の大切さを指導したり教職員が率先してあいさつしたりすることで、あいさつの励行は着実にすすめられていると感じられます。教職員が輪番で児童を昇降口で見守る看護当番の記録でも児童の挨拶が良好であるとの記述が増えています。特に今年度は6年生が自主的に挨拶運動に取り組んでくれました。タスキやのぼりも自分たちで用意し、元気な挨拶の声を聞かせてくれました。その取組が下級生にも波及し、3学期末には5年生を中心に挨拶運動に取り組みました。明正小学校の新たな伝統として定着を願いつつ、引き続き挨拶の励行に取り組んでまいります。また、「決まりを守る」といった規範意識については、継続的な指導とともに、全教職員が共通の認識で指導に当たることが必要です。定期的な情報交換を通して児童の実態を共通理解し、適時指導することができるようすすめてまいります。

タブレット端末について、学校内においては、必要な時に必要なことに使うといった「明正小 iPad のきまり」に基づいた使用がこれまでに比べ定着しました。タブレット端末も文房具の一つとして効果的な使用がすすめられています。一方で、家庭においては、長時間の YouTube の視聴等、課題をご報告いただくことが依然あります。学校でも指導してまいります。保護者会等を通して各ご家庭での使用の状況やルールを共有する等、適切な使用ができるよう取り組んでまいります。

【明正小学校関係者評価結果】

◎重点目標についての評価結果

③「たくましい子ども」として、多様な他者のよさを理解し、協働して解決しようとする態度を身に付け、力を合わせて達成する能力や態度を育てる。

アンケートの児童向け設問「わたしは体育や休み時間にすすんで運動している」でのプラス評価は76.0%（前年度76.4%、前々年度以前順に71.1%、68.7%、63.2%）と上昇傾向にある。「学校生活は楽しい」のプラス評価は88.4%（前年度86.0%、前々年度以前順に82.2%、83.6%、80.4%）とこれも上昇傾向にある。保護者向け設問「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」のプラス評価は82.8%（前年度77.7%、前々年度以前順に77.5%、74.8%、78.8%）、「本校では、子どもが体を動かす時間が足りている」のプラス評価は63.1%（前年度54.9%、前々年度以前順に60.0%、57.0%、58.2%）と多少変動があるものの、全体的には上昇傾向にある。これらから、子どもが体を動かす事に積極的になっているものと推察される。

明正小学校は常に校庭スペースの問題をかかえており、自己評価報告書の中でもスペースの調整と安全性確保について詳細に不具合が指摘されていて改善策が検討されている。ハード面の問題は当面解決は難しいと考えられるが、体育授業も教科担任制に移行しており、ソフト面の工夫による問題点の改善と安全性向上に期待したい。

<改善結果・改善方策>

「すすんで運動している」と肯定的な回答している児童は継続して増えており、体育授業の充実や体力づくりの取組の成果と考えられます。高学年では教科担任制により体育を専門に研究している教職員が授業を担当することで運動時間を確保するとともに、体を動かす意欲を高められるようすすめています。体力づくりについて、3学期に取り組んだ短縄跳びでは、縦割り班活動での学び合いやリズム縄跳びの取組で高学年が手本となったり教職員も共に参加したりすることで、多くの児童が楽しんで参加することができました。また児童による運動委員会においても「縄跳びリレー」を企画し、低学年児童も楽しそうに参加していました。休み時間（昼休み）について、清掃の時間を一律にするのではなく、各学年で割り当てることで、校庭や体育館遊びを確保するようにしました。時間は短いですが児童にも好評であり、楽しそうに遊ぶ姿が多く見られるようになりました。約900名が過ごす学校ですので、施設の狭さは課題ですが、限られた環境を効率的に活用できるよう検討を継続してまいります。児童向け設問「学校生活は楽しい」9割程度の児童が肯定的な回答をしており、年々増えています。児童が前向きに学校で生活できていることは大変うれしいことです。今後も継続できるよう教育活動の充実に取り組んでまいります。

2 令和8年度に向けた改善方策

教育目標に基づき、「明るい子ども」として、「学ぶ意欲を高め、自らすすんで課題をもち、主体的に解決していこうとする能力や態度」を育てます。「正しい子ども」として、「多様性を尊重し、思いやりや感謝の心をもって、よりよい人間関係を築く能力や態度」を育てます。「たくましい子ども」として、「力を合わせて達成する子ども」を重視します。他者を理解し、協働して解決しようとする態度を身に付けさせるとともに、心身の健康づくりを進めます。

そのための方策として、「キャリア・未来デザイン教育の実現」に向けて、これからの社会の担い手となり、持続可能な社会を発展させていくために、非認知能力とともに、課題に向き合い、判断して行動するための主体性や協調性、創造力、課題設定・解決能力、表現力等を養います。振り返りを起点とした探究のプロセスを重視し、問いの質と探究の質を向上させ、「せたがや探究的な学び」を充実させ、学び続ける素地を養います。ウェルビーイングの向上を目指し、自己肯定感や自己実現等の獲得的要素と利他性や貢献意識等の協調的要素を一体的に養います。キャリア・パスポートを活用し、自ら目指す姿を設

定させ、保護者や教師の価値付けにより自己のよさを自覚させ、短期・長期的な将来への希望や社会への参画意識を醸成します。

「多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進」に向けて、多文化共生社会の実現に向け、他者を尊重し、違いを認め合いながら生きていくための寛容な態度と柔軟性を醸成します。全教育活動を通してインクルーシブ教育ガイドラインや子どもの権利条約に基づく人権尊重の意識と態度を育てます。各教科等において人権課題を取り上げるとともに、通常学級と特別支援学級の交流及び共同学習を通して多様性を尊重する精神を育みます。特別活動を中心に自己肯定感や他者を慈しむ心情、貢献しようとする意識を育てます。個別指導計画や教育支援計画等を活用し、個々の実態に応じた教育の充実を図るとともに、ふれあい月間アンケートやQ U調査等を活用し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応や不登校の未然防止・長期欠席児童への対応を充実します。関係諸機関と連携するとともに、全職員がチーム学校として組織的に一人一人の児童を支援します。

「地域社会と協働した教育の推進」に向けて、学校運営協議会を通して「地域のコミュニティに貢献できる学校」を目指します。児童からの意見聴取や「(仮称)活動グループ」の取組等を通して学校と地域のつながりを深めます。「砦の学び舎」の各校・園と連携し、成城3丁目緑地や近隣大学、商店会等の地域素材・地域人材を活用し、児童の主体的・対話的な活動を展開し、多様な学びを推進します。地域での活動を通して、人々の営みを共感的に理解させ、自分の働きかけからの変化や改善の成就感や地域への帰属意識をもたせます。

「学校における働き方改革の推進」に向けて、教師と児童の双方に余白を創出し、豊かな教育活動につなげるために働き方改革の推進を図ります。児童と向き合える時間と教員の心身の健康増進や豊かな私生活での創造的な時間を確保し教育の質の向上につなげます。教員同士のミドルアップ・ミドルダウンの充実や諸会議の精選、効果的なICTを効果的に活用等、持続可能な取組を進めます。